

主催者挨拶

素川 富司

(国立教育政策研究所長)

素川 富司（国立教育政策研究所長）

本日は全国から多数の皆様方にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

この教育研究公開シンポジウムは、国立教育政策研究所の研究成果を直接教育現場や国民の皆様提供いたしまして、学校運営や教育内容、教育方法の改善に役立てていただくという趣旨によりまして、平成2年度から開催しているものでございます。第28回となる今回のシンポジウムは、「高等学校教育改革の成果と今後の在り方を考える」ということをテーマとして開催することといたしました。

高等学校進学率は、現在約98%に達しているわけでございます。この進学率の上昇に伴いまして、生徒の能力・適性、興味・関心、そして進路などが多様化しており、生徒一人一人の個性を伸ばす高等学校教育というものが求められるようになっております。国といたしましても、特色ある高等学校づくりが可能となりますように、中高一貫教育、総合学科、単位制高等学校をはじめとしまして、新しいタイプの高等学校や学科等の設置などを推進してまいったところでございます。

その一方、高等学校の生徒数はご案内のようにピークの平成元年の564万人に比べますと、本年度は335万人と約6割の水準に減っており、高等学校の適正配置や適正規模の在り方が課題となっております。このため、これらの状況を考慮しながら、全国各地域におきましては、充実した高等学校教育を実現するために様々な取組が行われているところでございます。

このような中、当研究所におきましては平成 18 年度と 19 年度に、「今後の後期中等教育の在り方に関する調査研究」を、当研究所のプロジェクト研究として実施してまいりました。本日のシンポジウムでは、この研究成果の報告も行わせていただきたいと思いますところでございます。さらに講師の先生方のご報告やパネルディスカッションを通じまして、高等学校教育改革の成果と展望について議論を深めていただければと考えております。

本日は文部科学省の前川喜平審議官、全国高等学校長協会長の戸谷賢司先生、三重県教育委員会の岩間知之先生、玉川大学の坂野慎二先生、大学入試センターの山村滋先生にも大変ご多忙の中ご出席いただいております。心から御礼を申し上げますと存じます。

当研究所は今年創立 60 周年という節目の年を迎えました。この記念すべき年に開催されます本日のシンポジウムが、ご出席の皆様方にとりまして実り多い内容となることをお祈りいたしますとともに、各地域における高等学校教育の改善・充実に向けた取組に寄与することを期待いたしまして、私からの冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございます。

